

佐渡米通信

こめる

2023年 9月号

発行日:2023年9月

編集人:佐渡農業協同組合 総務部総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snow.ocn.ne.jp

JA佐渡貸出SPAD計で しっかり収穫前の品質管理!

JA佐渡では、発育状況の把握や追肥量の管理に役立つ葉緑素計 (SPAD) の無償貸し出しを今年度から開始しました。

近年の品質格付けを引き下げる要因となっている高温登熟対策にSPAD計は有用です。より多くの生産者の方に価値を実感してもらおうと、本体制を整えました。

貸出制度を利用した関根さんご夫婦は、自分の圃場の葉色が薄いのではないかと心配しながら測定を行ったところ、目視の印象よりも数値が高く驚かされていました。数値による生育状況の把握は、気候変動に伴う施肥時期のずれや施肥量の調整に重要です。猛暑が続く中、JA佐渡ではSPAD計の貸し出しを延長して高品質米の生産に繋げていきます。



貸出SPAD計を使って測定



測定結果を分析し今後の生育管理を考えるご夫婦

佐渡の米農家さんにインタビュー

畑野地区の本間清さんにインタビューをさせていただきました。本間さんはコシヒカリ、こしいぶき、新之助、新潟次郎、WCSを約19ha作っています。

本間さんはJA佐渡の青年部に所属しています。印象に残る活動に、東京の販売店で店頭立った際、開店一番に佐渡米を購入したいとお客様が来られたことがあったそうです。また、JA青年部の全国組織であるJA全青協が主催する農業をPRする看板の競技会で、昨年度JA佐渡青年部の作品が見事最優秀賞を受賞しました。自身の納屋をアトリエにして、仲間と製作したことを嬉しそうに話されていました。

本間さんは、次の世代の人達が農業をやりたいと思ってもらえるために日々考えているそうです。新しいお米が市場に出たら地域の水稻部会員と食べ比べ会をしたり、島外の生産者の方々と情報交換をされる話を伺いました。インタビューを通して、本間さんは品質の高いお米を作るだけでなく、農業を取り巻く環境も盛り上げていくことが大切と考えているように感じました。JA佐渡も担い手育成や子供たち向けの農業体験の出前授業など次の世代に農業が繋がるよう積極的に取り組んで参ります。



出穂前の生育状況を確認した本間さん



畑野地区



JA佐渡青年部

創作活動は本間さんの納屋で行われました

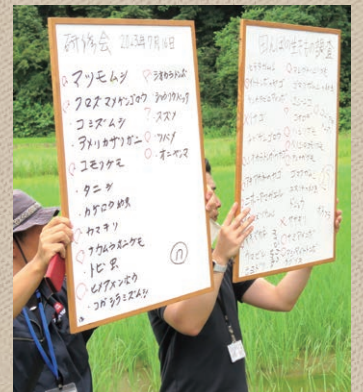
「JA青年組織手づくり看板全国コンクール」
看板部門 最優秀賞受賞

田んぼで生きもの調査

佐渡市認証米「朱鷺と暮らす郷」の生産者は年2回の生きもの調査を行います。



多様な生きものが育まれていることを実感する参加者たち



見つけた生きものを書き出し分類した様子

温湯消毒 春耕耘 苗づくり 田植え 水管理 中干し 穂肥 稲刈り 秋耕耘 ふゆみずたんぼ

